

全国のリスナー・読者のみなさんから、
ファミリー・フォーラム宛に、Eメールやお便りを頂いています。
その一部をここで紹介いたします。

●福島県は、地震や津波もさることながら、原発の被害をいまだに受け、多くの避難された方たちが、ここ郡山にもおられ、このたび貴団体から送られてきました「苦難の時に」という書籍と「子どもの心をケアする」という小冊子を、やっと落ちてきてきた今日この頃、支援物資と合わせて仮設住宅に配布し始めました。非常に効果的です。郡山だけでなく、関係諸教会の、二本松、大玉村、福島、須賀川などでも利用され始めました。

ある方は、内容に感動して、自分の大きな手術を終えた際、病室にて他の患者さんたちに「苦難の時に」をお配りしたとのこと。本書が仮設住宅にて豊かに用いられることを祈っています。
郡山バプテスト教会 田島信正 牧師

●『子どもの心をケアする』を読みました。素敵な冊子をありがとうございました。不安定で、不確かで、ネガティブな発想のつきまとう日々。私は、そんな中で子どもを大きく受けとめてあげることを意識していなかったかもしれません。自分の感情も不安定で、軸もブレ気味。だからこそ「自分の感情を処理する、表現する、そしてそのさまを子どもに見せる」という話にはドキリとしたわあ。劣等母の私ですが、もっと大きく豊かな気持ちで周囲に接してゆくことが、ひいては少しずつ社会を明るくしてゆく一歩なのかもしれませんね。
千葉県 Kさん

●私はイタリア人写真家で、日本の大都市についてのプロジェクトを進めています。特に、近代化と環境の変化が人間に与え

る影響に興味があり、ひきこもりについてリサーチをしていますが、FFJマガジンの「ひきこもり」についての特集に目が留まりました。私のプロジェクトに協力していただけませんか。

Pさん

*編集部より

「ひきこもり」についてならば、狭山心理研究所の服部雄一先生(FFM44号「日本人家族と『ひきこもり』の流行」参照)が適任と思われます。どうぞ連絡を取ってみてください。

●ドブソン先生の「苦難の時に」の完全版のほうを拝読しております。縮刷版をいただきましたが、それだけに終わらせずに注文させていただいて良かったと思う良書です。私は心臓外科の医師ですが、何ヶ所か医学関係の訳がちょっと……という所があります。(中略)

何より、本書は内容が素晴らしいです。また、訳者も大変読みやすい優れた訳をしておられます。だからこそ、向上のお役に立てればと感じました。とはいえ、致命的誤りではなく、医者だから気が付くことでしょうか。難癖をつけるつもりでないのは勿論のこと、素晴らしい書籍なのでFFJからの御要望があればひと肌脱ぎます、と申し出たまでです。悪しからず真意をお汲み取り下さり、御要望があれば御連絡下さい。
埼玉県 Iさん

*編集部より

今回は、思いがけず誤訳の可能性のご指摘をいただき、ありがとうございます。完全版は2年前に4刷りを出したばかりですので、数年間は増刷しないと思われていますが、修正は早めにしておきたいので、ご提案を戴けるならば幸いです。よろしくお



願いたします。

●「ケイティ・コールのしあわせレシピ」を毎回楽しみにしています。今回は簡単にできそうでしたので、早速作ってみました。甘さ控えめで、しっとりして、ブルーベリーとクルミがたくさん入っていてリッチなケーキに焼き上がりました。嬉しい！長野では、もうすぐリンゴの収穫が始まります。いつかケイティさんの「ホームメイド・アップルパイ」を教えていただけたらと思います。
長野県 Mさん

●あさみまな著『いつか愛せる』は、DVと共依存を知る上で、大変貴重な記録でした。奥様がクリスチャンということで、信仰を通して背後でこのご夫婦を導かれた神さまの大いなる愛に感動しました。著者が医師の一言を通して自分が共依存であることを知り、次第に自分の心の状態に目が開かれていく様子が新鮮でした。

本の最後に記されたご主人の記録も心に残りました。傷つき痛んだ魂に与えられる神さまの回復力は、私たち人間の思いも及ばないものであること、また、神様が造られた本来の私たちの姿への再創造の業の素晴らしさに希望を与えられました。
米国 Mさん

お便り募集

編集部では、皆様からのご意見や感想をお待ちしています。

home.office@ffj.gr.jp
TEL&FAX045-933-3875

